

産地生産基盤パワーアップ事業
都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書（収益性向上対策）

都道府県名 島根県

I 産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）

1 成果目標

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標																スマート農業推進枠 導入・定着の取組の 実施内容	地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)			補正係 数	価格補 正後の 実績	事後評価の検証方法 (※定量的な検証が できること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考							
					現状								目標									実績										前年度	目標年度					
					年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度		面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位										生産コスト 単位				
島根県 農業再生協議 会	2	島根県	たまねぎ	① 作業機械導入による省力化・規模拡大の取組 ② 収穫後の受託体制整備による作業効率化・所得向上の取組 ③ 保管施設利用による高品質・安定供給の取組	10a販売額の10%以上の増加	R1	277千円/10a	18.3 ha	675 t	75 円/kg	-	R6	372千円/10a	85.4 ha	3,696 t	86 円/kg	-	R6	386千円/10a	49.8 ha	1,658 t	116 円/kg	-	104 円/kg	143 円/kg	0.730	295千円/10a	19.6	【未達要因】 べと病の発生について、連作ほ場が多いことから、一次伝染株が多く発生、また平均気温が高かったことから、二次伝染株の発生が早く、初発の薬剤散布が遅れ、べと病が多く発生し、反収が低下したことにより、目標の10aあたり販売額に達していないことから、目標は未達成となった。 【今後の対策】 反収低下については、JAと県の農業部で連携し、防除層の見直しや適期防除、排水対策などの指導の徹底を行うことで対策する。 作付面積の伸び悩みについては、研修会で作付や拡大の提案をするなど、新規生産者の確保と既存生産者の面積拡大の推進を行うことで対策する。	べと病害の発生により、反収が低下したことから目標は未達となった。今後は反収低下については、JAと県の農業部で連携し、防除層の見直しや適期防除、排水対策などの指導の徹底を行うことで対策する。 作付面積の伸び悩みについては、研修会で作付や拡大の提案をするなど、新規生産者の確保と既存生産者の面積拡大の推進を行うことで対策する。								
益田市 農業再生協議 会	3	益田市 (TOMふどう協議会)	果樹 (施設ふどう)	施設ふどうの産地形成の推進	販売額の10%以上の増加	R2	110,930千円	4.17 ha	57,970 kg	1,914 円/kg	-	R6	124,658千円	5.28 ha	66,988 kg	1,861 円/kg	-	R6	125,367千円	5.23 ha	60,773 kg	2,063 円/kg	-	1,617 円/kg	1,805 円/kg	0.896	112,336千円	10.2	①現状値：令和2年度ふどう販売額 (TOMふどう協議会調べ) ②目標値：令和6年度ふどう販売計画額 ③実績値：令和6年度ふどう販売額 (TOMふどう協議会調べ) ④達成率：(③-①) / (②-①) × 100 令和6年度は、令和6年2月下旬～3月にかけての低温寡日照により花ぶるいが発生し、また夏の猛暑により樹勢が低下し、総体として生産量が減少した。併せて、事業導入ハウスでは定植遅れにより収穫が一部圃場にどまつたため、成果目標が未達成となった。 今後は、エスレル処理による花ぶるい対策など安定生産対策を取り、販売額の増加を図る。	令和6年度は、春先の低温・寡日照、夏場の猛暑など気象条件が厳しかったため、単収が低かったことが目標に未達成の原因である。近年は、夏季の高温など異常気象が続いているため、関係機関が連携し、栽培技術の見直しを進めるとともに、気象状況に応じた栽培管理を徹底するよう指導体制の強化を図る								